



mIRaI 通信



～輝く「未来」の中に「伊里」はある～

今年も備前焼まつりは暑かった

大盛りだ！



今年も備前焼まつり行ってきました！それにしても暑かった…今まで参加した中で一番暑かったような気がします。

9時40分からの表彰式。伊里中学校からは4人全員が参加、特設ステージ上で表彰されました。大変名誉なことですね、おめでとうございます。



続いてリフレッサーの展示場へ。ここでも多くの方が見に来られていました。そんな中、受賞作品はもちろん、伊里中学校2年生の作品群が並べられ、多くの鑑賞を受けていました。県下の小中高生の作品を順番に眺めていくと、その発達段階の違い、成長の度合いがわかり楽しかったです。

表彰された4人以外にも、入選として次の5人が選ばれています。後日、朝礼で表彰します。

【入選】 大崎正庸 谷口凛太郎 磯野衣紅映 石野海正 木村仁美



伊里中学校



伊里中2年生作品コーナー



県知事賞「使い込んだ面」



県民文化祭賞「縦横紙はさみ」



優秀賞「クジラのペンたて」



優秀賞「誕生」

そして、ここからは純粋な観光客としてまつりを楽しんできました。備前中学校の3年生がボランティアで活動しているのですが、この3年生からは私の転勤以降の学年なので、直接は知りません。おかげで去年までと違って、とっても気楽に歩くことができました。



たくさんの人出とペッカーリーとモモッチたち

今年もまつりは大盛況で、ものすごい人出でした。さすがに年齢層が高めで、私などはまだまだ若造って感じです（笑）。驚くほど多い備前焼を一つ一つ嬉しそうに見て回る表情が、みなさんととても若々しく映りました。私もけっこう時間をかけて、じっくり見て回ることができました。多くの作家の、様々な思いが詰まった作品を目にすることは、本当に楽しいものです。

世間では、空前のネコブームとのことですが、今年の備前焼まつりでも、ネコをモチーフにした作品がすごく多かったようです。やっと時代が私たちに追いついてきたって感じでしょうか（苦笑）。

1年生のみなさん、来年も私が表彰式に来られるよう頑張ってくださいね（何と気の早い：鬼笑）。



テストはテスト後が（ ）...！！



問題です。上記の（ ）内に入る適切な語句を書きなさい。

さすがにもうそろそろ正解率は100%ですね。

2学期の中間テストが終わりました。職員室の中は、先生たちが採点しながら、ああだこうだと出来具合を話し合っています。「この問題はよくできてるなあ」「何でこれがわからんの！」と、一喜一憂です。採点する先生たちの動きを観察すると…手首がクルクルとよく回る。つまり○が多い答案には自然顔がほころぶようですね。片や、シャツシャツと、手首が直線を描くことが多い時は、しかめっ面に…。出来がよければ喜ぶ、悪ければ悲しむ…単純なものです。

もちろん、先生たちを喜ばすためにテストはあるものではありません。究極は自分のため、自分の将来のため、ですよね。将来の大切な人のため、とも言えます。

そんな「将来」のための力とするには、テストごとの点数が良いだけでは足りません。テストで問われるような大事な問題を、いつまでも覚えておける、いつでも使うことができる、役立てることができる…などの「生きた実力・知恵」とするためには、テスト後の確認・定着は欠かせません。

学んで得た「情報」を、テストなどで確認して「知識」とし、そしてその後の定着させる努力をすることで「知恵」となります。

多くの生徒が、このテストに向けて一生懸命努力し、苦労したことでしょう。これっきりで終わらせるのはあまりにもったいないので、ぜひ生きて働く「知恵」となるよう、継続して取り組んでいきましょう。



世界中が「風に吹かれて」



ボブ・ディランのノーベル文学賞受賞は、本当に驚きで、世界中を一種のパニックに巻き込んだかのようでした。

ボブ・ディランと言えば…中学1年生の時、「ガロ」というグループの「学生街の喫茶店」と言う歌がヒットしていました。その歌詞の中に「街角で聴いていたボブ・ディラン～」という一節があり、「ボブ・ディランって何じゃい？」と、意味も知らぬまま、そのアメリカンテイストっぽい歌詞に魅かれ歌っていたのを鮮明に覚えています。その後、ボブ・ディランの歌やその思想に触れていくことになるのですが、今回のニュースは、中学校1年生の時代に一気にトリップするという側面が個人的にはあり、何かノスタルジックな気分浸らせてくれました。